

オンライン授業における大学生の学習モチベーション要因分析

Analysis for the Motivation to Learning in Online Classes for the Students

1741060 杉井 虹太

Kota SUGII

指導教員 秋葉 知昭

In this study, I executed survey questionnaire based on the binary factors of learning motivation model. So, I analyzed results by the multivariate statistics. From the results, it shows a learning motivation factors for the students in online classes.

1. 緒言

2020年現在、世界中で新型コロナウイルスの感染が広がり、大きな社会問題となっている。WHO（世界保健機構）が2020年1月に「国際的な緊急事態」を宣言し、日本においては「緊急事態宣言」を発令し、国民に外出自粛などを呼びかけた[1]。これによって、教育界を含め社会全体の「一堂に会する」ことが当然であった様々なことが、オンラインで行われるようになった。千葉工業大学においても2020年5月よりオンライン授業として授業が再開されるようになった。しかし、教室で集まって行う授業とオンライン授業では学習に対する意識は変わってくるものだ。基本的には一人でオンライン授業を受けることになるので、怠けてしまっても誰からも咎められることはない。自分の学習に対する意識が特に大事になってくる。そこで、オンライン授業を受ける際、何が学習動機に影響しているのか、何を変えたら学習モチベーションが向上するのか、それを解明すべく本研究を行う。

本研究では経営情報科学科の学生を対象に、オンライン授業と学習モチベーションに関するアンケート調査を行う。

2. モチベーション概要と分析方法

2.1 モチベーションについて[2]

モチベーションとは、「元気」とか「やる気」という心理現象を実現させ、活気に満ちた行動へと駆り立てるものである。

組織心理学者の田尾雅夫氏によると、「何か目標とするものがあって、それに向けて、行動を立ち上げ、方向づけ、支える力である」[3]と定義している。

2.2 学習動機の二要因モデル[4]

本研究では学生のモチベーションの判別に学習動機の二要因モデルを用いた。このモデルでは表1

の通り、縦軸に学習内容の重要性（内容に対する関心度合い）、横軸に学習の功利性（学習により得られるものについての関心度合い）を取り、6つの種類の学習動機を分類構造化している。

このモデルにおいて、上の段の充実、訓練、実用の3志向は学習内容に関与している動機なので、内容関与的動機と呼び、下の段の関係、自尊、報酬の3志向は学習内容から離れた動機なので、内容分離的動機と呼ばれる。

表1 学習動機の二要因モデル

学習内容の重要性 大(重視) ↑ ↓ 小(軽視)	充実志向 学習自体が楽しい	訓練志向 知力を鍛えるため	実用志向 仕事や生活に活かす
	関係志向 他者につられて	自尊思考 プライドや競争心から	報酬志向 報酬を得る手段として
	← 学習の功利性 →		大(重視)

2.3 分析方法

アンケート調査の分析方法には、多変量解析の手法である主成分分析とグラフィカルモデリング（以下GM）を用いた。GMでは、各質問の選択肢毎に層別を行った回答データを用いて分析を行い、6つの学習動機間の偏相関係数を用いて作成した相関図に違いがみられるかを検証した。

主成分分析では、分析結果を質問毎に層別し、各主成分を軸とした散布図で、選択肢毎に違いがみられるかを検証した。

3. アンケート調査概要

本研究では、新型コロナウイルスの影響により集合調査を行うことが難しいと判断し、Googleフォームを使用したインターネットによるアンケート調査を実施した。

対象者は経営情報科学科1年生から3年生で、回答期間は令和2年度9月23日から10月27日とした。アンケート票回収総数は1年生52票、2年生44票、3年生69票の合計165票であった。

3.1 アンケートについて

本研究で作成したアンケートは匿名式とし、大きく分けて2種類の質問、合計42問に質問を作成した。

学習動機の評価のための質問作成には、「勉強すること」、「専門科目」に対する考え方を学習動機の二要因モデルを基にそれぞれ「充実志向」、「訓練志向」、「実用志向」、「関係志向」、「自尊志向」、「報酬志向」の6つに分類して、合計24問作成した。これらの質問はリッカート尺度を用い、「5.当てはまる」「4.やや当てはまる」「3.どちらでもない」、「2.あまり当てはまらない」、「1.当てはまらない」の5段階で評価した。

層別に分析するためのデータとしては、性別や学年、インターネットの接続に関する設問などを合計18問作成した。

3.2 回答データの処理について

アンケート調査で得たデータは、学習動機に関するデータを量的変数、層別するためのデータ質的変数として扱った。また、学習動機に関するデータは、勉強することについての設問と専門科目の学習動機についての設問の合計24問を志向毎に各個人の平均値を出し、その値を各志向の値として扱った。

4. 結果と考察

GMで分析したグラフにおいて選択肢別に違いがみられた質問のうち一つを図1、図2に示す。

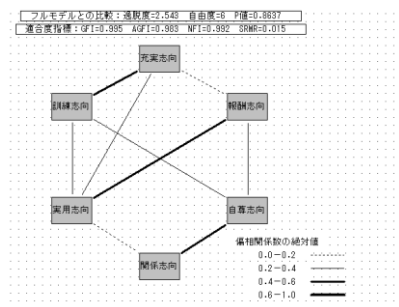


図1「パソコン、スマートフォンを使っている人」のGM

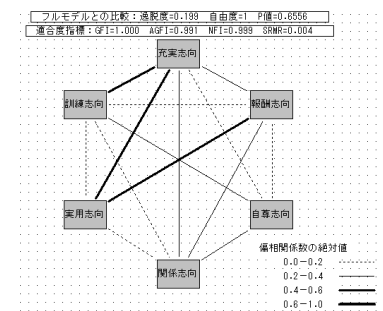


図2「学校配布のiPadのみを使っている人」のGM

「どんな端末を使ってオンライン授業を受けていますか」という質問への回答の選択肢を「パソコン、スマートフォンを使っている」、「学校配布のiPadのみ使っている」の2グループに分けて層別を行った結果である。スマートフォンやパソコンはプライベートで使っている人が多いのに対して、学校配布のiPadは勉強用として使っている人が多いため、充実志向と実用志向に正の相関が表れたと考えられる。

別の結果では、SNSを使った交友関係がある学生、アルバイトをしている学生などに学習意欲が高いことが分かった。

また、主成分分析では、インターネット接続が不自由な学生、インターネット利用時間が7時間以上の学生、講義の予習復習を行っていない学生のデータが、学習することに対して受動的であるということが結果から分かった。

5. 結言

人が学習する動機は様々であり、本研究の結果は全ての学生に必ず当てはまると言い切れないが、結果としては、学習とプライベートを切り替えること、普段から視野を広げ、様々な情報に興味を持つこと、学生同士で情報共有をして学業上の不安を解消すること、家でだらけてしまわないようにアルバイトなどをして生活にメリハリをつけることが重要であるということがわかった。

これらの結果を参考に自分にとって何が必要・不要なのかを判断し、自分に合った選択をすることで、学習モチベーションの向上に役立てることができると思う。

謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご回答いただいた経営情報科学科1年生から3年生、アンケート調査実施時に御協力頂いた経営情報科学科各学年の先生方、日頃のゼミを通じて様々なアドバイスを下さった秋葉研究室の皆様は厚く御礼申し上げます。

文献

- [1] 厚生労働省(<https://www.mhlw.go.jp/>) (2020年12月閲覧)
- [2] 池田光：図解きほんからわかる「モチベーション」理論，イースト・プレス(2008)
- [3] 田尾雅夫：モチベーション入門，日経文庫(1993)
- [4] 市川伸一：学ぶ意欲の心理学，PHP新書(2012)